

NPO法人OSSAJ  
橋本明彦

# 最近のOSS談義

# 誰?

- オープンソースカンファレンス.Government 実行委員
- 福岡県Ruby・コンテンツビジネス振興会議 顧問
- 一般財団法人Rubyアソシエーション 理事
- Ruby biz グランプリ実行委員会 委員
- 特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会 理事
- OSSコンソーシアム 賛助会員(個人)
- 日本OSS推進フォーラム個人会員(アプリケーション部会所属)
- ICTイノベーションミッションナリ(No.58)

# 著作権しぼりの限界

- Hatta先生のお怒り
- 「著作権」を持っていれば何でも出来る
- GPLは、著作権を持っていればこそ、適用できるもの
- 著作権は「オープン」の原動力
- しかし . . .
- 匿名化の研究とか、バックドアのない暗号技術の検討とか
- 「フリー」なものだけで構成された乱数発生機とか
- いろいろ、むずかしい状況がある

# 最先端ITのOSS化

- TensorFlow
  - <https://www.tensorflow.org/>
- open ledger project
  - <https://blockchain.linuxfoundation.org/>
- Apache財団は、ミドルウェアが強かった
- 新しい最先端ITのOSSは、単なるミドルウェアじゃない
- あるレイヤーを押さえに行くOSS戦略から . . .
- ソフトウェアはOSSにしてみんなに直してもらい、自分が握っている(ビッグ)データと組み合わせたときに価値が出る

# GIS/地図情報に見るオープンの展開

- OpenStreetMap(OSM) <https://openstreetmap.jp/>
- たとえば、QGIS <http://qgis.org/ja/site/>
- OSSなGISの伝統とOSMは、あった
  
- 国の地理情報関連の成果物の利用条件が開放に向かう
  - OECD的なオープンデータ化の要請
- 商業的に販売されていた地理情報が、商業的でありながら利用条件が開放に向かう
  - 損して得取る(?)的なビジネスモデル

# オープンとシェアリング

- オープンソースは、ソースコードを公開することでソフトウェアを共有する。
- シェアリングエコノミーは、利用に関する情報を流通させることで物を共有する。
- 総務省「社会課題解決のための新たなICTサービス・技術への人々の意識に関する調査研究」（平成27年）
  - <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/image/n4201040.png>

事例名称	実施主体	時期	概要
Airbnb	Airbnb (米国)	2008年8月開始	保有する住宅や物件を宿泊施設として登録し、貸し出しできるプラットフォームを提供するWEBサービス。190か国超の34,000超の都市で100万超の宿が登録されている <sup>*2</sup> 。
Uber	Uber (米国)	2010年6月開始	スマートフォンやGPSなどのICTを活用し、移動ニーズのある利用者とドライバーをマッチングさせるサービス。高級ハイヤーを配車するUber、低価格タクシーを配車するuberX、既存のタクシーを配車するUberTAXIなどのサービスを提供。
Lyft	Lyft (米国)	2012年8月開始	スマートフォンアプリによって移動希望者とドライバーをマッチングするサービス。Facebookのアカウントか電話番号でログインして利用する。移動希望者とドライバーがお互いに評価を確認してから、乗車が成立する <sup>*3</sup> 。
DogVacay	DogVacay (米国)	2012年開始	ペットホテルの代替となるペットシッターの登録・利用が可能なプラットフォームを提供するWEBサービス。
RelayRides	RelayRides (米国)	2012年開始	使用されていない車を、オーナーからスマートフォンアプリを通じて借りることができるサービス。米国内の2,100以上の都市及び300以上の空港で利用できる。
TaskRabbit	TaskRabbit (米国)	2011年7月開始	家事や日曜大工等の作業をアウトソーシングするためのウェブサービス。
Prove Trust	Prove Trust (米国)	2014年開始	シェアリング・エコノミーにおける貸主と借主の信頼関係を一括で管理できるウェブサービス。

# 「うれしくない」状況

- 高橋征義さんの最近気になること
  - <http://www.slideshare.net/takahashim/ossforum2015>
- Github
  - <https://github.com/>
- Slack
  - <https://slack.com/>
- 「OSSの開発にOSSではない物を使わなければならない状況」



# 遍在化とキメラ化

- 遍在するオープン

- 全体では商用版に見えていても、ミドルウェアにオープンソースが使われていたり。
- オープンソースを受け入れることに対して、使う者の気持ちが割り切れる。

- キメラ化するオープン

- サービスを利用する際に、どこにどんなソフトウェアが仕込まれているのか判然とせず、しかも、UIなど(いわゆる)上のレイヤに部品としてオープンソースが混じっている。
- 自分はオープンソースを受け入れる側に立っているか、使う者の気持ちが割り切れない。

# 「オープン」以前の「フリー」

- 「ソフトウェアの自由」
  - <http://www.gnu.org/philosophy/free-sw.ja.html>
- どんな目的に対しても、プログラムを望むままに実行する自由
- プログラムがどのように動作しているか研究し、必要に応じて改造する自由
  - ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。
- 身近な人を助けられるよう、コピーを再配布する自由
- 改変した版を他に配布する自由
  - これにより、変更がコミュニティ全体にとって利益となる機会を提供できます。ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。

# 「フリー」に対する「オープン」

- 個人の感想です。
- 「オープン」は、クラシックな「フリー」の先に進むための、モダンなテーゼだった。
- 今や、「オープン」も囚われの中で古色を帯びはじめ、乗り越えなければならないところに差し掛かっている。
- あるいは、真の「フリー」に回帰する時が来たのか。

# OSSAJの宣伝

- OSC 2016 Tokyo/Spring
  - <http://www.ospn.jp/osc2016-spring/>
- オープンソースの来し方行く末 ～10年間OSSをテーマに活動してきたNPO法人OSSAJの軌跡から考える～
  - 2016-02-26(金) 14時00分
  - <https://www.ospn.jp/osc2016-spring/modules/eguide/event.php?eid=70>